

## [建設業編] 日本で働く海外人材レポート 建設業で働く海外人材、10年間で9倍超に増える 6割が改革予定の「技能実習」、ベトナム出身者が4割強と最多

総合人材サービス会社で建設業向けの人材紹介・人材派遣・海外エンジニア派遣サービスを展開するヒューマンリソシア株式会社（本社：東京都新宿区、代表取締役：御旅屋 貢、以下「当社」）は、建設業における人材動向について、統計データベースなどを基に独自集計し、レポートとして発表しています。このたび、国内の建設業における海外人材の活用状況について調査し、「日本で働く海外人材レポート」として発表します。

### 【本件のポイント】

- 日本で働く海外人材は初めて 200 万人を超え、建設業で働く海外人材は 14.5 万人に
- 10 年間で 9 倍超に大幅増、建設業就業者の 3%を海外人材が占める
- 建設業で働く海外人材の約 6 割は「技能実習」、国別ではベトナム出身者が最多で 4 割強に上る

・本レポートは、厚生労働省「外国人雇用状況」の届出状況まとめを元に集計・調査しています。

### ＜調査結果概要＞

日本で働く海外人材（外国人労働者、以下「海外人材」）は初めて 200 万人を超え、建設業で働く海外人材については、2023 年には 14.5 万人となりました。10 年間で 9 倍以上と大きく増え、建設業就業者の約 3%が海外人材となり、建設業における海外人材の存在感は高まっています。

内訳をみると、約 6 割を、改革が予定されている「技能実習」の在留資格者が占めており、多くが建設技能工として働いていると推測されます。国別ではベトナム出身者が最多で 4 割強、インドネシアおよびフィリピン出身者も大きく増えています。また 2019 年より受け入れが開始された「特定技能」制度で働く海外人材も 1.2 万人に上りました。

当社の試算では、2030 年には、建設技術者が 4.5 万人、技能工は 17.9 万人が不足すると推計しており（※1）、海外人材への期待値は今後さらに高まることが予測されます。技能実習制度の改革や新たな制度の創設などが進んでいますが、こうした海外人材の受け入れ環境の整備が急がれます。

本調査結果の全体版につきましては、下記にて資料ダウンロードとしてご提供しています。

日本で働く海外人材レポート [建設業編] は、[【こちら】](#)より資料ダウンロードいただけます。

URL : [https://corporate.resocia.jp/dl/construction\\_03](https://corporate.resocia.jp/dl/construction_03)

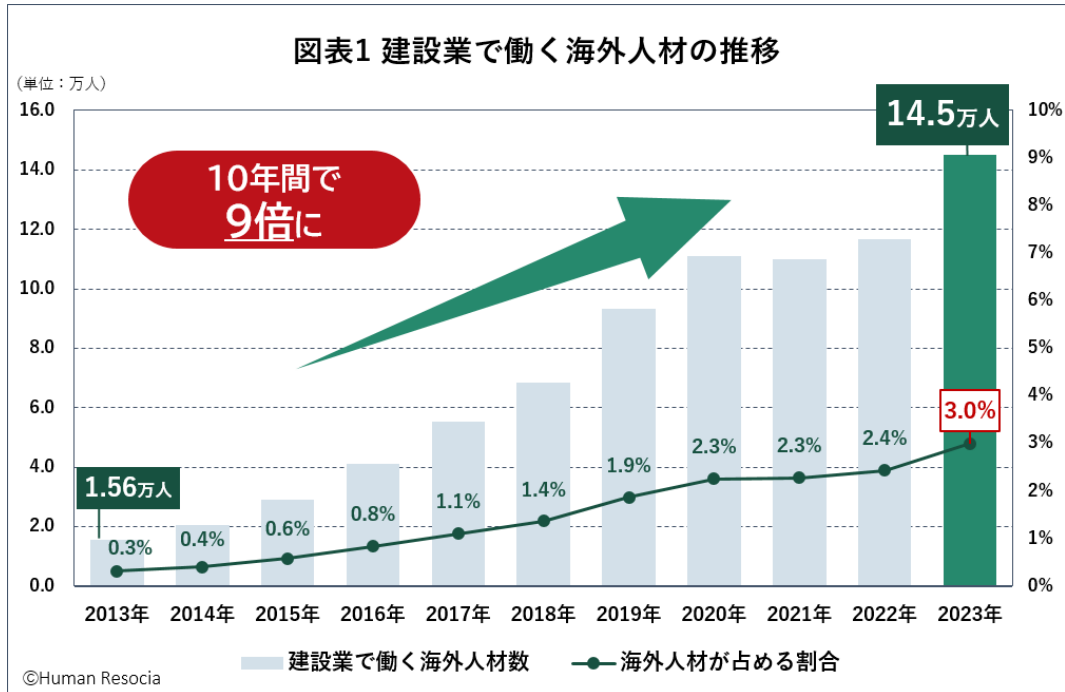
※1) 参照 : 当社発表プレスリリース [「建設技術者・技能工の 2030 年の未来予測 \(2023 年版\)」](#)

■ 本件に関するお問い合わせ ■

ヒューマンリソシア株式会社 広報担当 吉田 E-mail : [resocia-pr@athuman.com](mailto:resocia-pr@athuman.com)

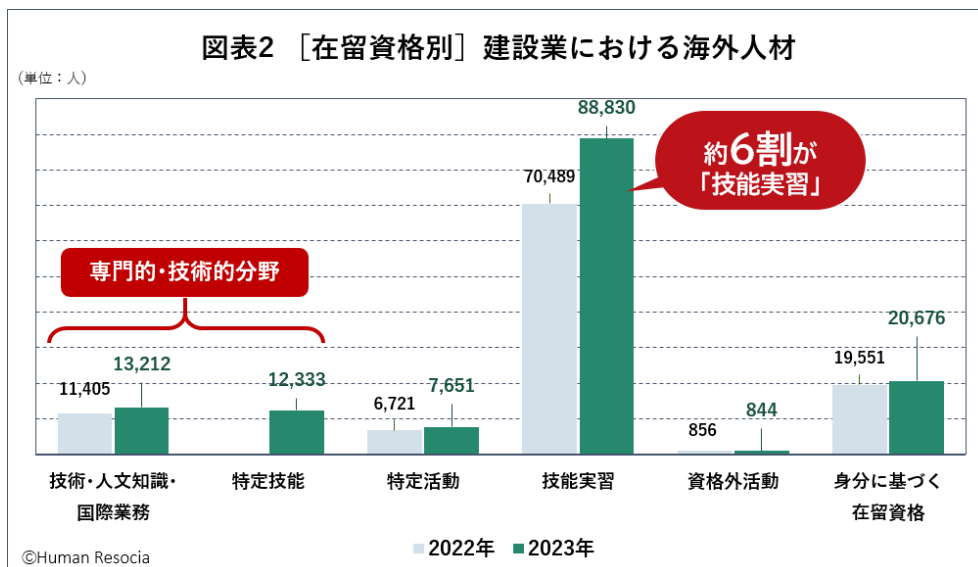
## ■建設業で働く海外出身者は10年間で9倍以上に増え、14.5万人に

日本の建設業で働く海外人材は、2023年10月時点において14.5万人となり、前年比では24.1%増と大きく伸びました。2020年から2022年まではコロナ感染拡大の影響もあり、伸び率は停滞気味でしたが、コロナ禍からの本格的な回復や国内の人材不足などを受け、2023年に大きく増加する結果となりました。直近10年間では9倍超となります（図表1）。なお、建設業就業者数は2023年で約483万人であるため、建設業で働く人のうち約3%を、海外人材が占めています。



（図表1）厚生労働省「外国人雇用状況」の届出状況まとめより作成

建設業で海外人材が増えている背景には、技能実習生の受け入れ増加があげられます。建設業における海外人材を在留資格別で見ると、もっとも多いのが、「技能実習」となり全体の約6割超を占めています。次いで約2.1万人の「身分に基づく在留資格」、約1.3万人の「技術・人文知識・国際業務」、そして2019年4月より受け入れが開始された新たな在留資格である「特定技能」が約1.2万人となりました（図表2）。特定技能の在留資格者が増えていること、また技能実習制度の改革に向けた議論が進むなど、長期的に、日本で働く海外人材が増えることが期待されます。



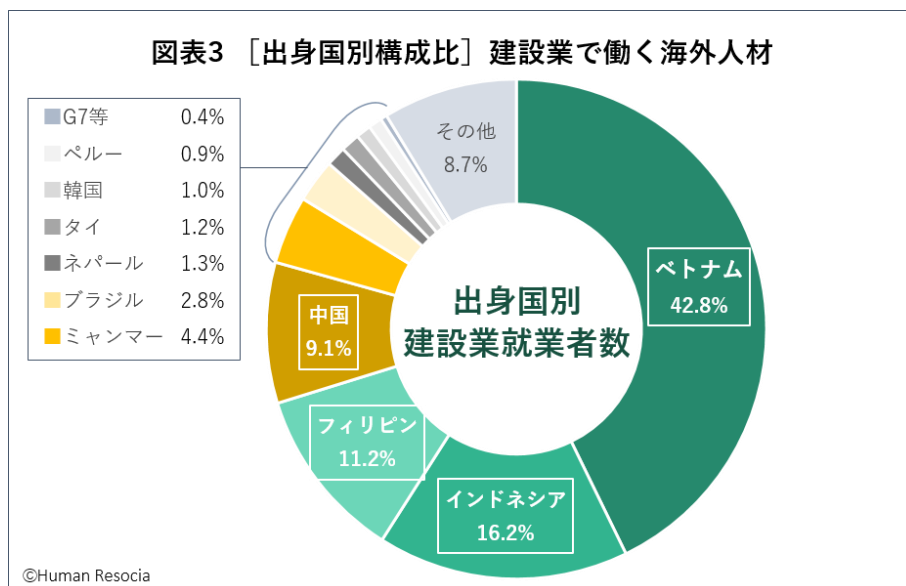
（図表2）厚生労働省「外国人雇用状況」の届出状況まとめより作成

■ 本件に関するお問い合わせ ■

ヒューマンリソシア株式会社 広報担当 吉田 E-mail: resocia-pr@athuman.com

## ■ 出身国別ではベトナムが最も多く 4 割強を占め、大幅増のインドネシア、フィリピンが続く

こうした建設業で就業する海外出身者を、出身国別にみると、ベトナムが最も多く、42.8%を占めています。なお、ベトナム出身者は 2023 年には 6.2 万人となり、前年の 2022 年比で 14.7%増加しています。続いて、大幅に増加しているインドネシアとフィリピンが続き、そして中国となりました。この 4 カ国で、建設業で働く海外人材の約 8 割を占めています。



(図表 3) 厚生労働省「外国人雇用状況」の届出状況まとめより作成。

G7 等とは、フランス、アメリカ、イギリス、ドイツ、イタリア、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、ロシアをさす。

### <ヒューマンリソシアについて>

総合人材サービス会社として、人材派遣、人材紹介、業務受託サービスを全国 26 拠点で展開しています。1988 年創業以来、教育事業をバックボーンに多彩なサービスを展開するグループの総合力を活かし、「人材」に関する幅広いサービスを提供しています。

- ヒューマンリソシア WEB サイト：<https://resocia.jp>



### <ヒューマングループについて>

ヒューマングループは、教育事業を中核に、人材、介護、保育、美容、スポーツ、IT と多岐にわたる事業を展開しています。1985 年の創業以来「為世為人 (いせいいじん)」を経営理念に掲げ、各事業の強みを生かし、連携しながらシナジーを最大限に発揮する独自のビジネスモデルにより、国内 300 拠点以上のネットワークでお客様に質の高いサービスを提供しています。

- ヒューマンホールディングス WEB サイト：<https://www.athuman.com/>

## 会社概要

### ヒューマンリソシア株式会社

- 代表取締役： 御旅屋 貢
- 所在地： 東京都新宿区西新宿 7-5-25 西新宿プライムスクエア 1 階
- 資本金： 1 億円
- U R L：<https://resocia.jp>

■ 本件に関するお問い合わせ ■ ヒューマンリソシア株式会社 広報担当 吉田  
E-mail：[resocia-pr@athuman.com](mailto:resocia-pr@athuman.com)

■ ヒューマングループに関するお問い合わせ ■ ヒューマングループ 広報担当 若林、平  
E-mail：[kouhou@athuman.com](mailto:kouhou@athuman.com)